



青少年育成市民会議



いわき市青少年育成市民会議において、地区ごとに行っている青少年の健全育成に関する活動の一部を紹介します。

～生かそう、きずな。未来のために！～

事務局 四倉公民館 (三三)一一九一〇



本年度実施できた数少ない活動の一つとして、八月四日(水)四倉公民館にて、「黒板アート」に挑戦してみよう！を小学生対象に開催しました。市民講師の萩原光明先生を招き、十七人が参加しました。黒板アートは、ミニ黒板に、数本のクレパスを使って作品を描きます。作画は、自由発想によるものや先生の用意したモデル画の模写など、思い思いの絵が描かれました。

クレパスは、色作りや扱いが簡単で、ティッシュペーパーで何度も修正できる点など、作画には適した画材でした。イメージを膨らませながら、制作に真剣に取り組む子どもたちの姿が、とても印象的でした。

夏休み体験教室

四倉地区推進協議会



子どもたちを集めずにできる行事がないものか考えを巡らせ、なぜか本協議会では実施してこなかった「青少年健全育成標語コンクール」を初めて企画しました。子どもたちは、夏休みの宿題が増え、困ったことでしょう。

学年ごとにテーマを指定しましたが、「コロナ」が最も書きやすかつたようで、コロナ禍での、家族や友達との絆を絡めた内容の作品が多く見受けられました。ユニークな作品が多く、大人たちが楽しんで審査していました。

来年度は、本来の「子どもたちが楽しんで思い出に残る行事」を開催したいものです。

青少年健全育成標語コンクール

遠野地区推進協議会



本協議会では、年間を通し行う「朝のあいさつ運動」に加えて、七月二十九日(木)に、小川公民館料理実習室において、小学四年生から六年生を対象とした「夏休み手こねパン教室」を開催しました。

開催にあたっては、三密を避けるため、定員を例年より半数程度減らしました。参加者八人は三班に分かれ、班ごとに協力し合いながら、ウインナークロールを作りました。参加した子どもたちは毎年パン教室を楽しみにしていて、子どもたちにとつて、楽しい夏休みの思い出となつたようです。来年度こそは、通常通り開催できることを願っています。

夏休み手こねパン教室

小川地区推進協議会

事務局 上遠野公民館 (八九)一〇五九

事務局 小川公民館 (八三)一一六八

事務局 好間公民館 (三六)一〇五〇



事務局 三和公民館 (八六)二二〇四



事務局 田人公民館 (六九)二二二六



事務局 川前公民館 (八四)二〇〇三



本協議会の令和三年度の活動は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、その多くが中止となっていました。そのような中でも、一月二十二日(土)に、「好間町少年ポスター展」および「社会を明るくする標語展」の応募作品を審査し、一月三十一日(月)から二月二十五日(金)まで、好間第四小学校→好間第一小学校→好間第二小学校→好間公民館の順で巡回展示を実施しています。

三月からは、標語展入選作品を看板にして、好間地区の小・中学校および好間公民館に掲示します。こうした活動を通して、好間町が良くなることを祈っています。

ポスター展・標語展

好間地区推進協議会

せせらぎスクール

三和地区推進協議会

五月から七月にかけて、三和小学校六年生十四人が、三和町を流れる好間川について、三回にわたって学習しました。一回目は、雨降山で水源の現地調査を、二回目は、中流にあたる校舎近くで生物調査と水質調査を、三回目は下流にあたる平地区に出向き、平橋や沢帯公園などで川の様子の観察を実施しました。

子どもたちは、三回の学習を通して、水源から下流までの川の様子の変化を体感するとともに、自然や水の大切さ、環境保全の必要性、そして自然の恵みにあふれた自分たちの住む三和町の素晴らしいしさについて、あらためて実感していました。

本協議会では、十二月七日(火)田人小・中学校にて、田人公民館および地区社会福祉協議会との共催事業「地域交流会」を開催し、田人小学校児童が参加しました。本年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしながらの実施となりました。

地域の特産物を学ぶ五・六年生は、収穫した自然薯(じねんじょ)で、自然薯汁とカレーを地域の方のご指導のもと手際よく作りました。

その他の学年は、地域の新たな町おこしとして期待される「次世代モビリティ・エネルギー開発」のお話を聞く事ができました。

地域交流会

田人地区推進協議会

川前地区小中交流会

川前地区推進協議会

本協議会では、七月三日(土)に、川前公民館および川前地区五校との共催事業「川前地区小中交流会」を川前準備運動のあと、学校ごとに分かれて風船バレーを行いました。当日は、感染リスク軽減のため、参加者を児童生徒一人と教職員に限定しての大会となりました。

準備運動のあと、学校ごとに分かれて風船バレーを行いました。次に、六チーム対抗で、ボッチャを行い、目標となる白いボール目掛け持ち球を投げました。

コントロールに苦戦しつつも、児童生徒も教職員も一緒に「いい汗」を流しました。

事務局 久之浜公民館 (八二)一一六五



事務局 中央公民館 (一一)五四三一



事務局 小名浜公民館 (五四)一八九〇



事務局 植田公民館 (六二)三四六七

本協議会では、十一月二十日(土)久之浜公民館二階和室にて、「第三回本はおともだち」を開催し、親子十九人が参加しました。最初に、久之浜公民館市民講座講師の藤井ゆか里先生が手作りしたクリスマスカードに親子でシールを貼るなど、工作を楽しみました。次に、本協議会理事が大型絵本の読み聞かせを行い、子どもたちばかりでなく大人も一緒に笑顔いっぱいのひとときとなりました。その後の人気アニメの上映も、目を輝かせて、食い入るようになっていました。最後にプレゼントをもらい大満足の一日でした。来年度も、各種行事ができるように安心安全を最優先に考へていきたいです。

本年度は六月から三月までの期間で全八回を予定、感染防止対策を開催します。内容は、平窪の地元で開催しています。内閣府のジオラマ作成、新聞講座で正しめ、各小・中学校でのメディア教育講座の実施を支援しています。昨年度は新型コロナの関係で実施できませんでしたが、本年度は泉中学校、泉小学校で実施しました。

受講した子どもたちは、「インターネットの危険性が分かった」「SNSの怖いところが分かった」など、今後の適正な利用につながる感想が寄せられています。今後とも、小・中学校と連携し、子どもたちが安全にインターネット等を利用できるように取り組んでいきたいです。

標語に込められた子どもたちの願いが少しでも実現されるよう、我々大人たちも頑張らなければ、と改めて感じさせられました。来年度も同様で実施する予定です。

本はおともだち

久之浜・大久地区推進協議会

自遊学校で学び体験しよう

平地区推進協議会

メディア教育講座

小名浜地区推進協議会

標語「わたしが住みたいまち」

勿来地区推進協議会



第43回少年の主張福島県大会

優秀賞作品

「殺処分ゼロ」を目指して

いわき市立泉中学校 3年

吉田 天音



みなさんは保護猫という言葉を聞いたことがありますか？

私も以前は保護猫については詳しく知りませんでした。しかし、友人から猫と触れあえるサロンがあることを聞き、そこで保護猫の存在を知りました。

「猫と気軽に触れあえるなんて楽しみだな。」と軽い気持ちでサロンに行くと、所員の方から、「この保護猫サロンの代表をしている鈴木さんは、東日本大震災で帰還困難区域に残された猫たちを保護したい一心でこのサロンを立ち上げたんだよ。」という話を聞きました。

保護猫という言葉を初めて聞き、私はとても驚きました。猫というと、私はペットショップのショーケースの中にいる子猫ばかりを想像していたからです。そして、猫をはじめとして動物は飼い主が最後まで責任をもつて育てるものばかりだと思っていた。しかし、このサロンにいる猫は最後まで飼い主のもとで飼われるこなく、保護された猫たちなのです。

保護猫サロンでは、ボランティアや支援者の方を中心に現在、百五十頭もの犬や猫を保護しています。最近では、帰還困難区域からの保護よりも虐待や多頭飼いによる劣悪な環境からの保護が多いことも聞きました。

私は、保護猫サロンの猫たちと触れ合ったことで、改めて命の重さや尊さについて考えるようになりました。そして、もっと保護猫について知りたいと思い、毎週保護猫サロンに通いました。

保護猫と触れあうと、猫たちが抱える多くの問題が見えてきます。

病気を抱えている子、けがをしている子、体の一部が思うように動かない子。保護猫たちは困難を抱えながらも、懸命に生きていることがその姿から伝わってきます。

私は保護猫たちとの関わりから、今までにない愛情が芽生えてきました。

命を預かるという責任の重さから逃れたい、ほんの少しの時間だけ猫を可愛がればいい、という安易な考え方から、命の重さとは何か、という問題に直面したこと、保護猫の本当の幸せとは何か、と考えるようになりました。保護猫サロンに足を運ぶことで新たに知ったことがあります。それは、福島県は動物の殺処分が全国で三番目に多いということです。この事実に私は大きな衝撃を受けました。

メタボ改善、フードロスをなくす取り組み、新型コロナウイルス感染症などのニュースを耳にすることはありますが、動物の殺処分が全国三位というニュースについては一度も聞いたことがありません。

確かに福島県内にも動物愛護センターはあります。しかし、その存在に私たちは気づかないまま過ごしていました。そして、この瞬間にも尊い命を失う動物たちが数多くいるのです。

保護猫サロンは「いわき市の動物殺処分ゼロ」を目標に掲げています。私はその取り組みに共感し、大きく心を動かされました。

保護猫たちの本当の幸せ。それは、里親に出会って、大切に育てられ、家族同然に愛されることです。

私は、家族と何度も話し合い、七歳になる保護猫二匹を家族に迎えることにしました。命の重さに直面することを避け、自分の好きな時間に猫に触れるだけでいい、という軽い気持ちで保護猫サロンに足を運んだ私を保護猫たち、そして保護猫サロンに関わる多くの方々が教えてくれました。

ちゃちゃ君とあめちゃん。二匹の保護猫は私に命の尊さ、懸命に生きることの意味、そして命を預かる責任の重さを教えてくれました。小さな命を守ること。そして、家族同然の存在として最後まで責任を持って育てるこ。その大きさを私はこれからも、保護猫との関わりを通して発信したいと思います。

第43回少年の主張福島県大会

優良賞作品

伝統文化を守り抜くこと

いわき市立平第三中学校 3年
山崎愛望



みなさんは、じんがら念佛踊りを知っていますか。新盆の家をまわり太鼓と鉦のリズムにのせながら念佛を唱えて踊る、いわき市に伝わる念佛踊りの一種です。私は毎年、お盆に祖父母の家でじんがらを見るのを楽しみにしていました。その音色を聞きながら、もうすぐ夏休みが終わるのを感じたものです。しかし、二年前の台風の影響で、昨年祖父母の地域ではじんがらが行われませんでした。衣装を保存している蔵が床上浸水となり、衣装が泥まみれになってしまったのだそうです。地域の方々の尽力もあり、何とかじんがらを再開できるまでになったのですが、コロナ感染予防のため、今年も実施を見合わせるそうです。来年こそは、と思い、コロナの収束を強く願ってやみません。

小さい頃から何度も見てきたじんがら。考えてみたら、その深い意味は分からずじんがらに対する知識が浅いことに気付きました。じんがらにはどんな歴史があるのかが気になり調べてみました。じんがらは、小川江筋の開拓者、沢村勘兵衛勝為の一周年忌に農民が供養のために念佛踊りを踊ったことが起源だという説があるそうです。今では、いわき市の無形民俗文化財に指定されています。

私はじんがらの念佛、太鼓や鉦の音色、ダイナミックなリズムの全てに魅力を感じています。そして朝から晩まで演奏を続ける人に憧れています。私の叔父はじんがらに二十年間も携わっているベテランです。神社の祭りの大和舞の踊りも担当し、地元の伝統文化に深く携わる人です。叔父の影響もあり、私も高校生になったら絶対にじんがらを踊りたいと思っています。しかし、祖母が「最近じんがらを演奏する人が減ってきてる」と言っていました。若い世代が伝統文化に触れる機会が少ないので新たな人が集まらないというのです。

じんがらを踊る人が高齢化し、叔父の団体も五年前に比べ、人数が半数に減ってきているそうです。そもそもお盆に帰省し、お盆の習わしを行う人は大変少ないかもしれません。お盆は八月十三日からの四日間で行う宗教行事です。お盆の思い出と言えば、精霊馬です。小さい頃、祖父母の家で準備を手伝ったことがあります。

作りながら祖母は「精霊馬はね、きゅうりを使って足の速い馬を表し、足の遅い牛に見立ててなすを使うんだよ。迎え盆にご先祖様に早く来てほしいという願いを込め、馬に乗って来てねという意味と、送り盆には名残惜しいから牛に乗ってゆっくり帰ってねという思いを込めて供えるんだよ。」と話してくれました。亡くなったご先祖様を迎える入れ、共に自分たちの家で過ごすお盆の習慣。亡くなった方の魂を思い、太鼓と鉦に合わせて踊り続けるじんがら。長い歴史の中で、人々が生と死と向き合い、互いのつながりを大切に思う気持ちで代々継承してきた地域に伝わる伝統行事は、私たちの根底にあるものを見つめ直し、生きている地域の歴史を感じることのできる、かけがえのない習慣なのです。このいわきで生きた人々が、時代を超えて魂でつながり合い、一体となって楽しむことこそが伝統行事の価値なのだと思うのです。

今は新型コロナウイルスの影響で中止にせざるを得ない伝統行事が多々あります。たくさんの人が楽しみにしていたいわき市の七夕祭りも、二年連続で中止になりました。コロナや地震・台風などの影響で伝統が途絶えるのはとても悲しいことです。大変難しいことですが、課題や逆境を乗り越え、継続することは本当に価値があることだと思います。地元に伝わる伝統文化を守り抜くには、たくさんの人の想いと協力が必要です。だから、私もじんがらの演奏者として地域の方々と共に地元に残る伝統を守るという誇りをもって生きていきたいと思います。

あなたの地域にある、誇れるものは何ですか。あなたの心の根底にある、大切に残したいものは何ですか。

青少年健全育成標語

常磐地区推進協議会

本年度は、コロナ禍であつても「で
きることはやろう！」という思いか
ら、一年ぶりに「青少年健全育成標語
」のコンテストを実施しました。

地区の小・中学校十校から、五十七
の作品の応募があり、審査の結果、小
学校、中学校それぞれに最優秀賞、優
秀賞、佳作を決定し、入賞者には、賞
状と記念品を贈呈しました。(感染防
止のため、表彰式は実施せず)

また、入賞した十三作品を広く
知つていただくため、ポスターを作
成し、小・中学校はじめ関係機関へ配
付しました。



じやんがら体験教室

内郷地区推進協議会

内郷地区を含めた本市の伝統行事
である「じやんがら」を子どもたちに
伝承するため、平成二十八年度より、
小学四年生から中学三年生までを対
象に、「じやんがら体験教室」を毎年開
催しています。(但し、昨年度はコロナ
禍で開催を断念)

本年度は昨年度の経験を踏まえた
感染防止対策をしつかり行い、コロナ
退散の気持ちも込め、十五人の児童・
生徒が下綴青年会の皆さまの指導を
受けながら、令和四年二月十九日(土)
の発表会に向け練習を重ねています。

市民会議総会・表彰

令和三年度は、市内に
おける新型コロナウイル
ス感染症の拡大の状況を
踏まえ、書面開催した理
事会において、本年度の
努力目標や事業計画等を
決定し、総会に代えまし
た。

また、毎年総会におい
て実施している市民会議
表彰については、各地区
推進協議会において、十
三人の受賞者に対し賞状
の伝達を行いました。

福島県青少年育成条例 に基づく知事表彰

受賞者紹介(敬称略)

○青少年育成団体
・いわき南地区山田防犯協会
(会長 濑谷 一雄)

○渡邊 孝子
(いわき東地区少年警察
ボランティア協会)

○北郷 泰子
(いわき南地区少年警察
ボランティア協会)

○西山 洋子
(ガールスカウト福島県連盟)
○青少年育成団体
・永崎女性の会
(会長 高久 香代子)

受賞者紹介(敬称略)

【市民会議表彰受賞者(敬
称略)】
○小野 算久(平)
○瀬谷 一彦(平)
○久保千代美(小名浜)
○蛭田 元起(勿来)
○金山 一彦(勿来)
○富岡 正治(平)
○長久保徳雄(勿来)
○片寄 秀雄(好間)
○小堀 星(常磐)
○松田 草一(常磐)
○高橋 草一(常磐)
○遠藤 澄子(勿来)
○高橋 勝好(常磐)
○星 亨(内郷)
○高橋 元茂(常磐)

いわきメディア指導員事業

市民会議では、子どもた
ちとその保護者に対し、イ
ンターネット等のメディア
の正しい使い方を啓発する
ことを目的に、「いわきメ
ディア指導員」を養成し、
学校・公民館・地域で行う
講習会等に派遣しています。
子どもたちを有害情報や
犯罪被害から守るために、ど
うぞご活用ください。

【お問い合わせ先】

生涯学習課青少年係
電話 二二一七五五八
市内青少年育成市民会議
事務局 常磐公民館 (四二)(二三〇五)

いわき市青少年育成市民会議
事務局 生涯学習課
〒九七〇一八〇二六
いわき市平字根町四一八
いわき市役所東分庁舎四階
電話二二一七五五八

令和三年度編集委員名簿									
委員長	副委員長	委員四	委員五	委員六	委員七	委員八	委員九	委員十	委員十一
内常磐	久之浜大久	川原	好川	小野	和田	三間	和根	吉田	青木
内常磐	川原	和根	吉田	青木	光行	三戸	根本	吉田	青木
内常磐	和根	吉田	青木	光行	倉	まゆみ	吉田	青木	光行
佐々木	吉田	吉田	吉田	吉田	遠藤	秀一	吉田	吉田	吉田
惣一	吉田	吉田	吉田	吉田	大久	三戸	吉田	吉田	吉田

市内の新型コロナウイル
ス感染症の拡大の影響によ
り、中止としました。
毎年の学生による意見発
表の代替として、ウェブ上
での開催となつた、第四十
三回少年の主張福島県大会
に、いわき市代表として出
場していただいた二人の作
品を掲載します。
子どもたちの意見(声)
に耳を傾け、地域をあげて
益々の事業推進を図つて参
りましょう。

いわき市 青少年育成大会